

「戦車を洗車！」 駒門駐屯地で体験型イベントを実施

自衛隊神奈川地方協力本部小田原地域事務所（所長 奥山貴志2陸尉）は、11月29日（土）、陸上自衛隊駒門駐屯地と連携し、戦車を自らの手で洗車する体験型イベントを実施した。

当日は25名が参加。参加者は普段は遠くからしか見ることはない戦車を目前に、その大きさや迫力に圧倒されながら、隊員の説明を受けて車体を丁寧に洗い上げた。重厚な装甲に触れ、キャタピラの構造を観察し、実際に車体へ登るなど、一般では得難い体験に、参加者からは驚きと笑顔が広がった。「貴重な経験になった」「自衛隊をより身近に感じた」との声も聞かれた。

洗車体験後は、隊員が日々利用している食堂で体験喫食を実施。「とてもおいしかった」「デザートまで付いて驚いた」との声が上がり、栄養バランスの取れた献立や豊富なメニューに高い関心が寄せられた。

さらに、処遇改善の一環として、隊員の意見を取り入れて整備された駐屯地内のモデルルームも見学。機能性と快適性を備えた生活環境に、参加者からは驚きの声が上がっていた。

小田原地域事務所は、「今後も体験型広報を積極的に推進し、地域に開かれた活動を通じて自衛隊への理解促進と魅力発信に努めていく」としている。



上鶴間高校で『職業人講話』を実施

自衛隊神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 栗野晃光3陸佐）は、11月29日（木）、神奈川県立上鶴間高等学校で実施された『職業人講話』に参加した。

本講話は、地域のさまざまな業界で働く社会人が講師となり、1年生を対象に、高校卒業後の進路や就職について考える機会として毎年実施されている。今回は自衛隊を含む23業種が参加し、各教室に分かれて講話が行われた。

自衛隊の教室では、同校を担当する広報官が講師を務め、計4回の講話を実施し、延べ46名の生徒が聴講した。

講話では、広報官が自身の勤務経験をもとに、自衛隊の任務内容や福利厚生について説明した。陸上自衛隊の施設科隊員として、施設器材の操作に関する複数の資格を取得したことや、災害派遣活動に参加して被災者から数多くの感謝の言葉をいただいた経験、さらに、PKO活動を通じて国際貢献に携わったことなどを紹介し、自衛官という職業のやりがいや魅力について具体的に伝えた。

また、自衛隊を志した理由や、入隊後の苦労、仕事を通じて得た達成感について語り、生徒の自衛隊に対する理解を深めるとともに、将来の進路について考えるきっかけとなった。

聴講した生徒からは、「自衛隊に入隊して1番きつかったことは何か」「給料はどれくらいあるのか」といった質問が寄せられた。中には、「自衛隊に入るためにはどのような努力が必要か」と、入隊を視野に入れた質問もあり、生徒たちの自衛隊に対する関心の高まりがうかがえた。相模原地域事務所は、「今回の講話を通じて、自衛隊を少しでも身近に感じてくれたらうれしい。今後も地域の学校のニーズに応じて積極的に協力し、一人でも多くの生徒に自衛隊という職業への理解を深めていただけるよう、引き続き機会を提供していきたい」としている。

